



大分県書道

令和4年7月号 No. 385

そろそろ動き始めよう

「東アジア文化都市2022大分県」の開幕行事が5月22日に別府市のビーコンプラザで行われました。コロナで沈滞していた文化芸術活動に再び活力をつけたいと国民文化祭以来の大きなイベントです。「県民総参加で『おおいた』の文化を発信し、東アジアとの交流によって新たな文化を切り拓く」ことを目的としています。中国の温州市、濟南市、韓国の慶州市の三市との交流です。ただ日本もそうですが中国や韓国ではまだまだコロナが猛威を奮っていますので直接行き来する交流は難しいと思います。映像や作品交流など色々な方法を考えてこの一年間芸術文化の結びつきが出来ることを望みたいと思います。

開幕式に先立ってコンベンションホールでは色々な団体交流行事がありました。能楽、長唄、日田祇園囃子、大分高校・大分南高校書道部の書道パフォーマンス、津久見樫の実少年少女合唱団など日本の芸能の紹介や大分県の若い方々の芸術活動の紹介がエネルギーッシュに行われました。開幕式典はフィルハーモニアホールで行われ、広瀬知事の挨拶、三都市からは映像での挨拶、紹介、そして開幕記念演奏としてマルタ・アルゲリッチさんのピアノと清水高師さんによる弦楽四重奏がありました。世界的なピアニストのアルゲリッチさんと大分県はもう永いお付き合いで日本国内でも羨ましく思われている自慢の音楽祭でもあるのです。

開幕は11月に芸術の会員が中心になって行う「ムジカ

と生きる」です。これは西洋音楽発祥の地としての大分の歴史を大友宗麟時代を背景にして行う舞台です。この内容については又ご紹介したいと思います。

今年の終わりまでの期間に色々なイベントが準備されようとしています。希望を出している団体は100件を超し、今年は燃える芸術の秋になりそうです。書道関係も県美協書道部会の展覧会をはじめ「驥の会と若い風の合同展」「女流展」などが計画され中国との古典での繋がりや韓国のハングル文字による書表現なども考えられています。私も「線と線」というタイトルで仮名の故阿部久子先生との二人展を9月にオーパムで行う予定です。ご期待下さい。

この二年間は集まること、歌うこと、手をつなぐこと、大勢で飲み食いすることなどが禁じられました。そこには会話がなくなり笑いがなくなり人間の心の結びつきがなくなり、生活の潤いがなくなりました。人間が人間らしさを失いつつあったのです。豊かな人間の心を取り戻すためには芸術の力が大きな働きをします。まだまだ困難なことも多いと思いますがこの「東アジア文化都市」の年をチャンスにして芸術活動を取り戻し、人間の心の潤いを取り戻す中で生きる活力を強めていこうではありませんか。動き始めなければ何事も出来ないのです。お互いに声を掛け合い一歩踏み出しましょう。今もうその時が来ていると思います。休息は墮落に繋がることを恐れねばならないと思います。

戸口勝司
(勝山)